

## ■環境指標の状況について

第2次山梨県環境基本計画（平成26年3月策定、令和元年11月中間見直し。以下「本計画」という。）において、本県では、環境の保全と創造のための施策の展開として6分野と重点的に取り組む施策として7分野を定め、現状と課題を整理し施策の方向を示しています。

これらを進行管理するために、それぞれの施策において代表的な52項目の環境指標を設けています。

令和2年度末時点における、環境指標の状況（現状値）は次のとおりです。

### 1 全般的な状況

指標の状況を、【S】目標値を達成しているもの、【A】基準値と比較し改善しているもの、【B】基準値と比較し横ばいであるもの、【C】基準値と比較し改善していないものに分類した結果は、「4 環境指標一覧」のとおりです。

目標値を達成している指標【S】は22項目（42.3%）、基準値より改善している指標【A】は16項目（30.8%）で、全体の73.1%が順調に進捗しております。

※（ ）はR元

#### ○ 指標が目標値を達成している項目【S】 22項目 （25項目）

産業廃棄物再生利用率（指標番号5）、産業廃棄物最終処分量（指標番号6）、大気汚染に係る環境基準達成率（指標番号7、8、9、10、12）、温室効果ガス総排出量（指標番号30）、森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量（指標番号31）、クリーンエネルギー導入出力（住宅用太陽光発電）（指標番号33） 等

#### ○ 指標が基準値と比較し改善している項目【A】 16項目 （18項目）

一般廃棄物総排出量（指標番号1）、一般廃棄物再生利用率（指標番号3）、エコドライブ宣言車両率（指標番号13）、生活排水クリーン処理率（指標番号16）、獣害防止柵の整備による被害防止面積（指標番号26） 等

#### ○ 指標が基準値と比較し横ばいだった項目【B】 1項目 （2項目）

大気汚染に係る環境基準達成率（光化学オキシダント）（指標番号11）

#### ○ 指標が基準値と比較し改善していない項目【C】 13項目 （7項目）

「緑の教室」受講者数（指標番号20）、環境学習指導者派遣事業参加者数（指標番号37）、企業・団体の森づくり活動箇所数（指標番号41）、環境情報センター利用者数（指標番号42）、富士山環境教育参加者数（指標番号46） 等

## 2 主要な指標の動向

### (1) 大気環境

県外から大気汚染物質が移流するなど外部的要因が大きい光化学オキシダントを除き、環境基準を達成しました。引き続き、大気汚染状況の常時監視や工場・事業場の監視指導を進めます（指標番号7～12）。

### (2) 水質

河川 22 地点の全ての地点で環境基準を達成しました。湖沼 5 地点については昨年度から 1 地点増加し、3 地点（山中湖、河口湖、西湖）で環境基準を達成しました。引き続き、工場・事業場における適切な排水処理の徹底を図るとともに生活排水処理施設の整備等を推進します（指標番号 14, 15）。

### (3) 廃棄物

産業廃棄物再生利用率及び最終処分量は、排出量の多い建設業等が再生利用や減量化に努めていること等により目標値を達成しました。一般廃棄物再生利用率は、焼却灰の熔融スラグ化による再資源化が進んだことに加え、分別収集品目の増加、リサイクルステーションの増設など各市町村での資源化への取り組みが行われたことから基準値より改善しています（指標番号 1～6）。

## 3 まとめ

一般廃棄物総排出量や産業廃棄物最終処分量といった「環境負荷の少ない循環型の地域社会づくり」に関わる指標、大気や水質といった「安全・安心で快適な生活環境づくり」に関わる指標、鳥獣保護区等指定面積や獣害防止柵の整備による被害防止面積といった「生物多様性に富んだ自然共生社会づくり」に関わる指標、温室効果ガス総排出量や森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量といった「地球環境の保全に貢献する地域社会づくり」に関わる指標については、概ね目標値を達成または基準値より改善し、順調に進捗しています。

また、環境学習指導者派遣事業参加者数や企業・団体の森づくり活動箇所数といった「持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり」に関わる指標、環境情報センター利用者数、環境に関するフォーラム・国際シンポジウム参加者数といった「環境の保全と創造のための基盤づくり」に関わる指標については、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、中止や規模縮小を余儀なくされたことから大幅に数値が悪化しました。

#### 4 環境指標

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
1	一般廃棄物総排出量	310千t (H25)	277千t (R2)	299千t (R1)	A	A	<p>297, 299, 299</p>	生活系ごみについてはノーレジ袋の推進やリサイクルに関する出前講座の実施、事業系ごみについては定期的な搬入検査や多量排出事業者に対する減量化計画の提出等の取り組みにより、基準値と比べれば減少したものの、目標値には届かなかった。
2	1人1日当たりに家庭から排出するごみの量	589g/日 (H25)	550g/日 (R2)	594g (R1)	C	C	<p>580, 590, 594</p>	生活系ごみの資源化率が低下していることに伴い数字が増加し、目標値には届かなかった。
3	一般廃棄物再生利用率	16.6% (H25)	23% (R2)	16.7% (R1)	A	A	<p>15.9, 17.0, 16.7</p>	焼却灰の熔融スラグ化により再資源化が行われるようになった事に加え、分別収集品目の増加やリサイクルステーションの増設など、各市町村での資源化への取組が行われたが分別不徹底により可燃ごみに資源ごみが混入している状態が続いていることや、スーパーマーケット等民間事業者による店頭での回収の増加によって紙類が減少したことに伴い、再生利用率は基準年と比較して0.1ポイント増加に留まっている。
4	産業廃棄物総排出量	1,824千t (H25)	1,842千t (R2)	1,680千t (R1)	S	S	<p>1,811, 1,698, 1,680</p>	県内排出量の約30%を占める建設業の排出量が減少したことにより、目標を達成した。
5	産業廃棄物再生利用率	55% (H25)	56% (R2)	61% (R1)	S	S	<p>54, 61, 61</p>	排出量が多く再生利用率の高い建設業等が引き続き再生利用を行っていることにより、目標を達成した。
6	産業廃棄物最終処分量	154千t (H25)	153千t (R2)	21千t (R1)	S	S	<p>146, 21, 21</p>	県内最終処分量の約90%を占める建設業及び製造業において、引き続き再生利用や減量化を行っていることにより、目標を達成した。
7	大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄)	測定局3地点中3地点 (H24)	測定局3地点中3地点 (R5)	3/3 (R2)	S	S	<p>3, 3, 3</p>	すべての測定局で環境基準を達成した。
8	大気汚染に係る環境基準達成率(一酸化炭素)	測定局2地点中2地点 (H24)	測定局2地点中2地点 (R5)	2/2 (R2)	S	S	<p>2, 2, 2</p>	すべての測定局で環境基準を達成した。
9	大気汚染に係る環境基準達成率(浮遊粒子状物質)	測定局12地点中12地点 (H24)	測定局12地点中12地点 (R5)	12/12 (R2)	S	S	<p>12, 12, 12</p>	すべての測定局で環境基準を達成した。

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
10	大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化窒素)	測定局11地点中11地点(H24)	測定局11地点中11地点(R5)	11/11(R2)	S	S		すべての測定局で環境基準を達成した。
11	大気汚染に係る環境基準達成率(光化学オキシダント)	測定局11地点中0地点(H24)	達成率の向上を図ります。	0/10(R2)	B	B		原因物質(窒素酸化物等)の環境濃度は低減傾向にあるが、県内での原因物質の発生とともに首都圏地域からの大気汚染物質の移流等が原因と考えられる。引き続き、原因物質の排出削減に向けた取り組みを実施するとともに、光化学オキシダント濃度を監視していく。
12	大気汚染に係る環境基準達成率(微小粒子状物質)	測定局5地点中5地点(H24)	測定局6地点中6地点(R5)	6/6(R2)	S	S		すべての測定局で環境基準を達成した。
13	エコドライブ宣言車両率	20.1%(H24)	22.5%(R2)	21.1%(R2)	A	A		エコカーの普及、エコドライブの認知度の向上、企業の団体宣言が増加し、基準値を上回っている。今後も目標達成に向け、普及啓発等を実施していく。
14	水質汚濁に係る環境基準達成率(河川)(BOD)	河川22地点中21地点(H24)	河川22地点中22地点(R5)	22/22(R2)	S	S		河川22地点すべてで環境基準を達成した。
15	水質汚濁に係る環境基準達成率(湖沼)(COD)	湖沼5地点中5地点(H24)	湖沼5地点中5地点(R5)	3/5(R2)	C	C		前年度から1地点増加し、3地点で環境基準を達成した。引き続き、生活排水処理施設の整備推進や富士五湖水質補足調査を実施するなど、富士五湖の水質保全に努めていく。
16	生活排水クリーン処理率	80.7%(H27)	87.3%(R5)	84.4%(R2)	A	A		目標には届かなかったが、生活排水クリーン処理率は着実に増加している。
17	ダイオキシン類の環境基準達成地点数(大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	すべての調査地点で達成(H24)	すべての調査地点で達成(R5)	100%(R2)	S	S		すべての調査地点で環境基準を達成した。
18	自動車騒音に係る環境基準達成率	環境基準の全国平均達成率(H23全国平均91.8%)	全国平均を上回る達成率を維持します。	95.3%(R2)	S	S		県内の2車線以上の車線を有する道路に面し、住居等が存在する地域を評価した結果、昼夜間とも全国平均(94.2%)を上回っており、目標を達成した。

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
19	県内の国・県指定文化財の件数	701件 (H29)	726件 (R5)	706件 (R2)	A	A		新型コロナウイルスの影響により、各専門分野ごとに開催する文化財保護審議会の部会や指定候補案件の現地調査が予定通り開催できなかったことも影響し、R2は国・県ともに新たな指定はなかった。
20	「緑の教室」受講者数	980人 (H24)	1,380人 (R5)	796人 (R2)	C	A		新型コロナウイルスの影響により、森づくり活動の参加人数を縮小して実施したため、目標値を下回った。適切な感染症予防対策の下で、緑の教室が実施できるよう指導・助言を行う。
21	自然環境保全地区面積 (自然造成地区及び世界遺産景観保全地区は除く。)	3,650ha (H24)	3,650ha (R5)	3,650ha (R2)	S	S		自然環境保全地区面積の増減はなし。
22	鳥獣保護区等指定面積	74,795.9ha (H24)	74,795.9ha (R3)	74,795.9ha (R1)	S	S		鳥獣保護区等指定面積の増減はなし。
23	自然公園等利用者数	4,179万人 (H24)	5,720万人 (R5)	5,893万人 (R1)	S	A		富士山周辺の世界遺産登録による注目度の向上に伴う外国人観光客の増加等により基準値を上回った。
24	県内の山小屋トイレの整備率	87.0% (H25)	91.3% (R5)	89.9% (R2)	A	A		目標には届かなかったが、着実な取組により基準値を上回っている。引き続き、各山小屋に環境配慮型トイレの必要性和整備に関する助成の内容を伝えながら、整備を促していく。
25	ニホンジカの推定生息数	69,917頭 (H24)	33,000頭 (R5)	43,642頭 (R2)	A	A		H26末をピークに減少に転じ、R2末現在も基準値を大幅に下回っている。
26	獣害防止柵の整備による被害防止面積	3,531ha (H26)	4,870ha (R4)	4,761ha (R2)	A	A		整備の立ち遅れている市町村境や山間部の集落など、対策の遅れている地域を重点的に整備を行うことで、一定の成果を上げている。併せて、集落ぐるみの被害防止対策を支援した結果、住民の意識が向上し、被害が減少している集落も増えている。一方、中山間地域を中心に野生鳥獣への被害が継続的に発生している状況であるため、更なる対策を推進していく。
27	身近な自然環境や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川整備計画における河川整備率	55% (R1)	61% (R4)	58% (R2)	A	S		令和2年3月に新たに策定された「山梨県社会資本整備重点計画－第4次－」に基づき、計画的に整備を進めていく。 <small>※R2に根拠計画が改定されたことに伴い基準値・目標値が変更されたためR2の1年分のみ</small>

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
28	森林整備の実施面積	6,124ha/年 (H30)	6,400ha/年 (R4)	6,174ha/年 (R2)	A	S	<p>6,180 6,160 6,140 6,120 6,100</p> <p>※R2に根拠計画が改定されたことに伴い基準値・目標値が変更されたためR2の1年分のみ</p>	<p>施業の集約化、林内路網の整備等による施業の低コスト化や、森林環境税を活用した荒廃森林の再生などに取り組むとともに、国が安定的な財源を確保し、森林整備への継続的な支援を行うよう国に対して要望活動を実施している。目標達成に向け、引き続きこうした取り組みを推進していく。</p>
29	生物多様性の言葉の認知度	46% (H26)	75%以上 (R5)	100% (R2)	S	S	<p>100 98 96 94 92 90</p> <p>※R1から設定された指標のため、R1、R2の2年分のみ</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、県政出張講座に参加した環境保全・自然保護に関心のある方にしかアンケートができなかったため、認知度が高い。引き続き、各種イベントやパンフレット等を通じて適切な知識の普及を図る。</p>
30	温室効果ガス総排出量	6,744千t-CO2 (H25)	基準年度 (H25)比△18%削減(R2)	5,615千t-CO2 (H30)	S	A	<p>6,100 5,950 5,800 5,650 5,500</p>	<p>前年度比で排出量が減少した要因は、再生可能エネルギーの導入拡大や環境負荷の低いエネルギー源への転換、省エネによるエネルギー消費量の減少等が挙げられる。</p>
31	森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	971千t-CO2 (H25)	808千t-CO2 (R2)	931千t-CO2 (R2)	S	S	<p>1,020 990 960 930 900</p>	<p>間伐や造林等、森林整備による森林吸収源対策を進めたことにより、目標を達成した。</p>
32	木質バイオマス利用施設数	23施設 (H26)	29施設 (R2)	34施設 (R2)	S	S	<p>36 34 32 30</p>	<p>木質バイオマスボイラー等の導入を検討している者への指導・助言を行っており、計画を上回る進捗となっている。</p>
33	クリーンエネルギー導入出力 (住宅用太陽光発電)(10kW未満)	8.9万kW (H26)	14万Kw (R2)	14.6万kW (R2)	S	A	<p>15 14 13 12</p>	<p>住宅用太陽光発電の導入出力は毎年度増加しており、目標を達成した。引き続き、導入が図られるよう取り組みを進めていく。</p>
34	クリーンエネルギー導入出力 (小水力発電)	1.0万kW (H26)	1.2万kW (R2)	1.07万kW (R2)	A	A	<p>1.10 1.08 1.06 1.04 1.02 1.00</p>	<p>県営発電所の建設及び市町村、民間企業への支援等により、着実に進展が図られている。</p>
35	森林環境教育の実施教育機関数の割合	62%/年 (H24)	70%/年 (R5)	51% (R2)	C	B	<p>70 66 62 58 54 50</p>	<p>環境教育の必要性に対する教育機関の意識は高まっているため、やまなし緑育推進事業のチラシの配布をするなど支援を強化していく。</p>
36	富士山科学カレッジ修了者数	14人/年 (H30)	15人/年 (R5)	18人 (R2)	S	C	<p>20 17 14 11 8</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防のため定員15人としたのに対し、20人程度の受講希望があり、目標を達成した。</p>

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
37	環境学習指導者派遣事業参加者数	3,126人/年 (H15~29平均)	3,500人/年 (R5)	539人/年 (R2)	C	S	<p>2,225 3,942 539</p>	新型コロナウイルスの影響により、派遣依頼が大幅に減少したため。 (派遣回数 R1:63回、R2:13回)
38	環境美化活動参加者数	496,512人/年 (H26~29平均)	500,000人/年 (R5)	84,065人/年 (R2)	C	C	<p>584,473 357,354 84,065</p>	新型コロナウイルスの影響により、環境美化活動を行う団体が減少したため。
39	土木施設環境ボランティア数	71団体 (H20)	101団体 (R5)	104団体 (R2)	S	S	<p>103 106 104</p>	効果的な広報活動により、目標を達成した。
40	森林ボランティア団体数	73団体 (H22)	100団体 (R3)	102団体 (R2)	S	S	<p>106 105 102</p>	山梨県緑化推進機構と連携した森林ボランティア団体への活動支援等により、目標を達成した。
41	企業・団体の森づくり活動箇所数	59箇所/年 (H24)	90箇所/年 (R5)	57箇所/年 (R2)	C	A	<p>73 61 57</p>	新型コロナウイルスの影響により、森づくり活動の中止が相次いだことから目標値を下回った。適切な感染症予防対策の下で、森づくり活動が実施できるよう指導、助言を行う。
42	環境情報センター利用者数	4,640人/年 (H30)	4,800人/年 (R5)	979人 (R2)	C	S	<p>5,594 7,320 979</p>	新型コロナウイルスの影響により、6月まで閉室措置を取ったことに加え、7月の開室後は団体利用を中止するとともに、利用時間等の制限を行ったため、利用者数が大幅に減少した。
43	やまなしの環境アクセス数	9,146件/年 (H24)	20,000件/年 (R5)	6,739件/年 (R2)	C	A	<p>17,029 14,669 6,739</p>	県の環境の状況をまとめた「やまなしの環境」等、環境情報を県HPで公表しているが、基準値・目標値ともに大幅に下回った。環境保全に興味を持ってもらえるよう各種イベント等で周知を図っていく。
44	環境に関するフォーラム、国際シンポジウム参加者数	157人/年 (H30)	165人/年 (R5)	0人 (R2)	C	S	<p>111 203 0</p>	新型コロナウイルスの影響により開催を中止したため。
45	富士山環境保全活動参加者数	34,988人/年 (H27)	46,000人/年 (R2)	16,967人/年 (R1)	C	C	<p>23,970 23,054 16,967</p>	H25.6月の世界遺産登録から5年が経過し、富士山への関心が当初より落ち着き、参加者が固定され参加者を増やすことが難しくなっていることなどが考えられる。各関係団体と連携し、富士山の環境保全活動への参加を呼び掛ける。

番号	指標の項目	基準値	目標値	現状値 (R2末)	R2 評価	R1 評価	過去3年の推移 (H30~R2)	原因・状況
46	富士山環境教育参加者数	27,855人/年 (H27)	28,000人/年 (R2)	23,562人/年 (R1)	C	C	<p>28,158 26,731 23,562</p>	H25.6月の世界遺産登録から5年が経過し、富士山への関心が当初より落ち着き、参加者が固定され参加者を増やすことが難しくなっていることなどが考えられる。今後も学校をはじめとした関係機関と連携し、参加者数の維持・増加のため講座開催を継続していく。
47	富士山チップ制トイレ協力度	29% (H27)	100% (R2)	32% (R1)	A	A	<p>33 30 32</p>	トイレチップが登山者の自発的意思に依った制度であることや、チップの用途を多くのトイレに掲示しているものの、一部の登山者の理解を得られていないことなどから協力度は低調ではあるが、継続して取り組みを行ったことにより前年度と比べ増加している。
48	国、県、市町村道での電線類地中化の整備延長	134km (R1)	152km (R4)	137km (R2)	A	A	<p>137</p> <p>※R2に根拠計画が改定されたことに伴い指標が変更されたため、R2の1年分のみ</p>	令和2年3月に新たに策定された「山梨県社会資本整備重点計画-第4次-」に基づき、計画的に整備を進めていく。
49	荒廃した民有林の整備面積	-	770ha (H29~R3平均)	468ha (R2)	C	C	<p>618 380 468</p>	森林環境保全基金事業第1期計画 (H29~R3) に基づき、森林所有者の負担を求めず荒廃した民有林の森林整備を実施したが、令和元年度には国補助事業要件の改定、令和2年度には計画の見直しを行ったこともあり、目標値を下回っている。目標の達成に向け、市町村や林業事業体との連携を密にし、計画量の確保を図る。
50	やまなしGAPの認証者数	80者 (H30)	240者 (R4)	182者 (R2)	A	S	<p>128 182</p> <p>※R1に根拠計画が改定されたため、R1、R2の2年分のみ</p>	認証取得への指導・支援を行ったことにより、着実に認証者数は増加している。引き続き「山梨県農業基本計画」に基づき、やまなしGAP認証者数の増加に繋がる取り組みを実施していく。
51	有機農業に取り組む面積	181ha (H30)	220ha (R4)	210ha (R2)	A	S	<p>204 210</p> <p>※R1に根拠計画が改定されたため、R1、R2の2年分のみ</p>	有機農業に取り組む面積は着実に増加している。引き続き「山梨県農業基本計画」に基づき、有機栽培面積の拡大に繋がる取り組みを実施していく。
52	多面的機能支払交付金による取り組み面積	7,466ha (H30)	7,700ha (R4)	7,643ha (R2)	A	A	<p>7,555 7,643</p> <p>※R1に根拠計画が改定されたため、R1、R2の2年分のみ</p>	毎年度着実に成果を上げており、目標の達成に向け引き続き取り組みを推進する。引き続き「山梨県農業基本計画」に基づき、取り組み面積の増加に繋がる取り組みを実施していく。